

写真で見える

# 湘南キャンパス 事始め

from 1962 to 1972

写真をはじめ模型、計画案など  
さまざまな資料でたどる  
キャンパスの始まり

東海大学

東海大学学園史資料センター展示会

# CONTENTS

## 目次

- 展示会にあたって…………… 3
- I. キャンパスの設計と工事…………… 4
- II. キャンパスの日々…………… 9
- III. 変わりゆく大地 追憶の風景…………… 13

※本パンフレットは、平成18年(2006)3月20日(月)より4月22日(土)まで東海大学湘南校舎11号館図書館展示室で開催の学園史資料センター展示会「写真で見る 湘南キャンパス事始め」に展示する資料の図録である。

### 湘南校舎竣工略年表 昭和37年(1962)～昭和46年(1971)

年	竣工	学園行事・世相
昭和37 (1962)	4. 第一食堂竣工(現8号館) 11.23 教養課程湘南校舎地鎮祭(現1号館)	創立20周年記念式典挙行(11.22)
昭和38 (1963)	5. 8 本館(1号館)竣工→6.8竣工披露式 8.28 階段教室地鎮祭(現2号館)	高輪短大開学, 付属第三高・付属相模高開校(4月) *ケネディ米国大統領暗殺(11.22)
昭和39 (1964)	2.28 湘南望星学塾1号館(現J館)竣工 10. 野球場竣工 12.12 2号館竣工 この年, 陸上競技場完成 ※昭和39年より第1次5ヶ年建設計画開始	熊本短大(→九州東海大学)開学, 付属第四高開校(4月) 第1回学園オリンピック開催(8.16~17) 第10回建学祭開催 湘南で初めての建学祭(11.1~5) *国道246号線開通(8月), 東海道新幹線開業(10.1) 東京オリンピック開催(10.10~24)
昭和40 (1965)	4. 1 実験実習3棟竣工 6.30 研究実験A・B棟, 湘南望星学塾2号館(現K館)北側片棟竣工 7. 屋外50m公認プール完成 この年, 総合グラウンド完成この年陸上競技場完成	2号館で初めての卒業式(3.31), 入学式(4.15) 静岡短大開学(4月) *米国, 北ベトナム爆撃開始(2.7) 米国黒人運動指導者マルコムX暗殺(2.21)
昭和41 (1966)	2.28 研究実験C棟竣工 4. 1 研究実験H棟竣工 4. 4 研究実験D・E棟竣工 4.16 実験実習2棟竣工 10.26 松前会館竣工 10.30 武道館竣工 11.30 3号館竣工	福岡教養部開設, 付属第五高開校(4月) 山田守理事死去(6.13) *ビートルズ来日(6.29) この年, 日本の人口が1億人を突破
昭和42 (1967)	1.10 実験実習1棟竣工 3.31 メーベンハウス(現同窓会館)竣工 3. 円型食堂, 湘南望星学塾3号館(現L館)竣工 4.15 山田噴水完成 5.25 体育望星学塾(現湘南クラブハウス)竣工 5. 体操体育館竣工 この頃, 中央通りと富士見通りの舗装と緑地化を推進 10.12 研究実験F棟竣工 12.21 4号館竣工	東海大学初代総長に松前重義就任(4.1) 付属小開校(4月) 第13回建学祭開催(10.30~11.5) 建学祭の主開催地を湘南キャンパスに移す 創立25周年記念式典挙行(11.1)
昭和43 (1968)	1.11 研究実験G棟竣工 3.28 女子望星学塾(現国際会館)竣工 4. 4 実験実習6棟竣工 4.17 5号館竣工 8. 7 総合体育館竣工 この年, ラグビー場・サッカー場竣工	*霞ヶ関ビル完成(4.12) 東名高速道路 東京~厚木間開通(4.25) ロバート・ケネディ米国上院議員暗殺(6.5) メキシコオリンピック開催(10.12~27)
昭和44 (1969)	5. 1 7号館竣工 8.31 9号館竣工	*東名高速道路全面開通(5.26) 米国アポロ11号, 人類初の月面着陸(7.21)
昭和45 (1970)	1.21 8号館竣工 3. 湘南望星学塾2号館(現K館)南側増設分竣工 5. 8 6号館(A), 10号館竣工 9.14 6号館(C)竣工	湘南キャンパスで学園紛争が起こる(5.27~11.12) キャンパスの周囲に鉄製フェンスが設置される *大阪万博開催(3.14~9.13), よど号ハイジャック事件(3.31) 三島由紀夫割腹自殺(11.25)
昭和46 (1971)	1.11 6号館(B)竣工	*マクドナルド第1号店(銀座)オープン(7.20) 日清カップヌードル発売(9.18)

## 展示会にあたって

湘南キャンパスが建設された昭和30年代後半から40年代にかけての時期、西暦でいえば1960年代から70年代初頭にかけての日本は、高度経済成長のまっただ中にありました。産業構造が大きく変化し、大学への進学率も急激に上昇していきました。そうした時代に湘南キャンパスは、大型の郊外型キャンパスの先駆けとして、この平塚市北金目の大地に建造されたのでした。1号館の竣工が昭和38年(1963)で、2号館が建造された翌39年(1964)は東京オリンピックの年にあたります。東京はこのオリンピックを契機に大きく変貌しました。その波は東京の近郊からやがて日本全国に広がっていきます。湘南キャンパスはもとより、学園全体がそうした波の中で大きく発展していきました。学園の歴史もその時代相や社会相の中にあっただけです。

今回の展示は、時代に先駆けた湘南キャンパスの建設時のようすを写真を中心とした各種の資料でたどります。時期は1号館の地鎮祭が行なわれた昭和37年(1962)から昭和47年(1972)までの10年間です。10年かけて湘南キャンパスはその全容を明らかにしていきます。それはちょうど大学創立から20周年目、30周年目の節目にあたります。そこには創立者松前重義の理念があり、設計者山田守の設計思想があり、そして何より建設に携わったすべての人びとと草創期に学んだ学生たちの情熱がありました。キャンパスの建設はまた、これを受け入れた周辺地域を大きく変貌させていきました。その変貌に支えられてキャンパスは今にいたっています。今回の展示では、それらの足跡をたどりつつ、湘南キャンパスが「キャンパス」としてデザインされ、建設されてきたことの意義を考えてみたいと思います。

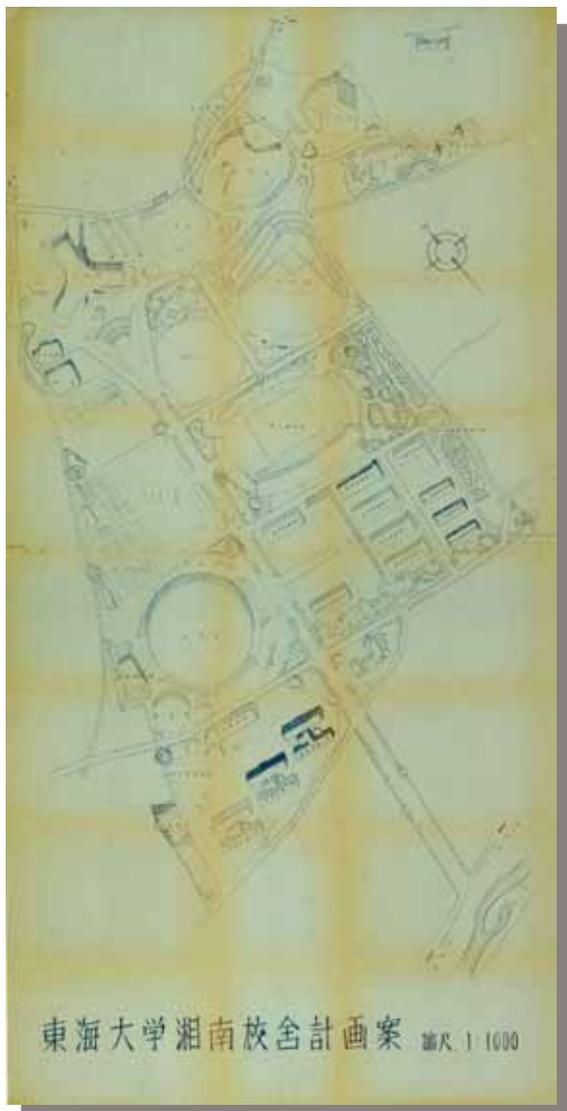
最後になりましたが、ご協力いただいた皆さまに心より感謝申し上げます。

東海大学学園史資料センター



湘南キャンパスと大山 昭和41年(1966)の空中写真





東海大学湘南校舎計画案 縮尺 1:1000



東海大学湘南校舎計画案 縮尺 1:1000

東海大学湘南校舎計画案 昭和40年(1965)  
 本図は左上の資料をデジタル処理したもの。円形状体育館や  
 3号館の形状、各種の博物館、自動車練習場などが目を引く。



東海大学湘南校舎計画案 縮尺 1:2000

東海大学湘南校舎計画案(独立行政法人国立公文書館所蔵)  
 昭和四十一年(一九六六)の申請書に添付の図(加筆修正)



1号館の石膏模型  
 当初は5階建ての計画で、1階はピロティになっている。

# 工事模様

建設工事は、山田守のモットーである「早く、安く、立派に」を合い言葉に、昼夜を分かたず進められました。そして1号館が完成した昭和39年(1964)より改めて第1次5ヶ年計画がスタートしますが、その仕上げとなる昭和43年(1968)以降に第2次計画が立てられたようすはなく、建設期から整備期へと移行していくことになります。そして昭和46年(1971)の6号館B棟の完成をもって、1号館から10号館までの校舎群と関連施設からなる湘南キャンパスの全容が整います。



鍬入れ式－2号館の地鎮祭－ 昭和38年(1963)



工事の安全を願って－2号館の地鎮祭－ 昭和38年(1963)



大地を拓く 昭和37年(1962)



昼夜を分かたぬ1号館工事 昭和38年(1963)



1号館工事近景 昭和38年(1963)



1号館工事遠景 昭和38年(1963)



完成間近の1号館 昭和38年(1963)



2号館の内部工事 昭和39年(1964)



工事中の2号館 昭和39年(1964)



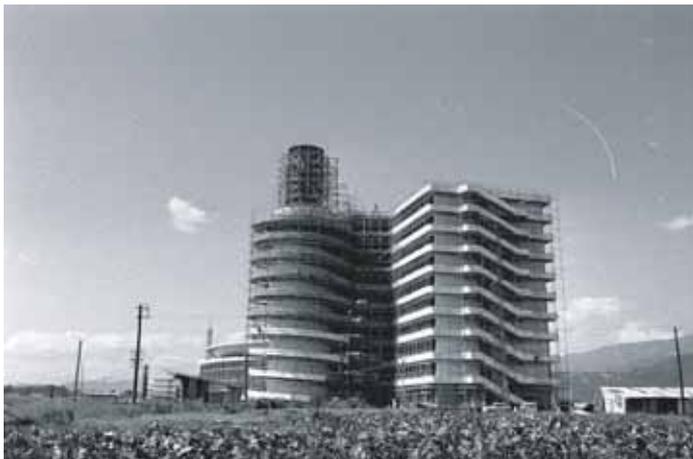
工事中の実験棟 昭和39年(1964)



3号館の骨組み 昭和41年(1966)



工事中のプール 昭和40年(1965)



完成間近の3号館 昭和41年(1966)



完成間近の総合体育館 昭和43年(1968)

# 理想の学園 をめざして

湘南キャンパスは当初、教養課程を学ぶ校舎として計画されました。それが一気に総合キャンパスへと拡大し、建設当時には学園がめざす一貫教育の完成の場として位置づけられました。キャンパスの建設にあわせて各付属校の校舎の建設や充実化も進められました。さまざまな意味で建設途上であった当時、どういった議論が交わされたかを広報や新聞、雑誌などの資料で探ります。



東洋一を誇る湘南校舎  
『東海』創刊号 昭和39年(1964)



理想的学園の造成をめざして 『東海』第5号 昭和40年(1965)



「一貫教育」整備へ 『東海大学新聞』第102号 昭和41年(1966)11月15日

平塚校舎建設計画  
昭和37年(1962)  
5月7日  
建坪3,448坪、学生数2,750人として試算されている。

## Ⅱ. キャンパスの日々

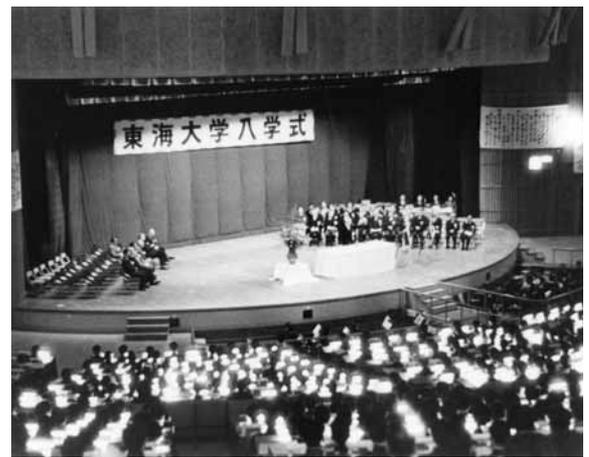
湘南キャンパスは、昭和39年(1964)の4月に開校しました。1号館はまだ工事中で、砂ぼこりの舞う当初のキャンパスは「湘南砂漠」などと揶揄<sup>やゆ</sup>されました。雨の日には長靴が欠かせませんでした。それでも、校舎の建設や道路の舗装などの環境が整っていく中で、入学式・卒業式の行事や授業の環境、そしてキャンパスでの生活も順次改善されていきました。建学祭や学園オリンピックなどの行事もさかんになっていきます。当時の授業で画期的だったのは、2号館に設置された最新鋭の大型スクリーンによるテレビジョンシステム「アイドホール」を使った授業です。マスプロ教育の先端を走るものでした。



アイドホール 『東海』第3号  
昭和40年(1965)



昭和40年度卒業式 昭和41年(1966)3月



昭和41年度入学式 昭和41年(1966)4月



雨の富士見通りにて新入生クラブ勧誘  
昭和41年(1966)4月



雨の富士見通りにて新入生クラブ勧誘  
昭和41年(1966)4月



電気工学科の授業 昭和40年(1965)頃



化学実験

電気工学科の化学実験 昭和40年(1965)頃



第1回学園オリンピック  
昭和39年(1964)8月



工事中の2号館と学園オリンピック  
昭和39年(1964)8月



第12回建学祭湘南祭 昭和41年(1966)10月

建学祭パンフレット



文化部連合会の新入生歓迎会 昭和38年(1963)



野球グラウンドにて学生集会 昭和40年(1965)



湘南第一食堂(現8号館) 昭和40年(1965)



同窓会館の食堂にて 昭和40年代



ボディビル愛好会 昭和40年(1965)



山内商店(現ローソン東海大学前店) 昭和40年代



大根駅(現東海大学前駅) 昭和40年代



神奈中バスの学内乗り入れ 昭和41年(1966)

# 望星学塾

創立者松前重義は、三鷹の自宅にデンマークの国民高等学校に範をとった私塾「望星学塾」を開設します。昭和11年(1936)1月のことで、これが東海大学の源流の一つとなりました。湘南キャンパスの建設にあたって松前は、その理想を実現するために、寄宿形式の望星学塾3棟(現医療技術短期大学)と女子望星学塾1棟(現国際会館)を併設しました。これに体育望星学塾(現湘南クラブ)を加えて三塾と呼ばれていました。

自室にて  
昭和四十年(一九六五)



朝の合同デンマーク体操 昭和40年代



望星学塾図書室 昭和40年代



女子望星学塾の自室 昭和40年代



円型食堂内の浴室 昭和40年代



体育望星学塾開塾式  
昭和四十二年(一九六七)五月

### Ⅲ. 変わりゆく大地 追憶の風景

湘南キャンパスが誘致されたことでピーナツ畑や野菜畑であった北金目は、まさに一変しました。谷戸も埋め立てられ、宅地化が進められました。校舎の建設が進むにつれて、周辺地域の構造が根底から変わっていったのです。時はまさに高度経済成長に沸き立つ建設ラッシュの時代で、大学と地域の発展は一体でした。ここでは当時の空中写真を軸に、急激に変わりゆく風景やそうした変化の中で失われていった風景を追いかけてみました。



昭和42年(1967)6月1日撮影



昭和39年(1964)7月24日撮影

この写真は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の空中写真及び米軍撮影の空中写真を複製したものである。  
(承認番号 平17 関復、第 588号)



平成15年(2003)の空中写真



「湘南砂漠」と呼ばれていた頃 昭和38年(1963)



1号館側から2号館方面を望む 昭和40年(1965)頃



2号館側から1号館方面を望む 昭和40年(1965)頃



中央通りから 昭和40年(1965)



研究実験館付近 昭和41年(1966)頃



円型食堂と望星学塾 昭和42年(1967)頃



1～3号館 昭和40年(1965)の空中写真



建設中の4号館 昭和41年(1966)の空中写真



嫁ぐ日を見守るかのように 昭和39年(1964)4月



宅地造成が進む谷戸（喫茶ボルボ前急階段通学路付近） 昭和44年(1969)



通学路と牛（現安藤橋付近） 昭和38年(1963)



山羊と湘南キャンパス 昭和40年(1965)



バス通りから（現ガスト鶴巻温泉店手前の坂）  
昭和40年(1965)頃



畑の向こうのキャンパス 昭和41年(1966)頃



昭和27年(1952)11月26日撮影

キャンパス建設前の北金目とその周辺

この写真は、国土地理院長の承認を得て、同院発行の空中写真及び米軍撮影の空中写真を複製したものである。

(承認番号 平17 関複、第 588号)

【湘南キャンパス敷地面積】

120,547坪(397,803㎡)

独立行政法人国立公文書館  
「学校法人東海大学」第144の5冊  
(昭和38～39年)

湘南キャンパス学生数変遷

年度	総計(女子)	増加率
昭和38年度	1963 1,977( 27)	
昭和39年度	1964 4,148( 56)	209.81%
昭和40年度	1965 5,602( 90)	135.12%
昭和41年度	1966 8,197(185)	146.32%
昭和42年度	1967 11,763(310)	143.50%
昭和43年度	1968 13,633(427)	115.90%
昭和44年度	1969 14,568(511)	106.86%
昭和45年度	1970 15,467(644)	106.17%
昭和46年度	1971 15,349(755)	99.24%
昭和47年度	1972 16,700(832)	108.80%
昭和48年度	1973 17,035(944)	102.01%

『ぼっぴ・すてっぴ……湘南教務課十年のおゆみー』  
昭和48年(1973)

発行：平成18年(2006)3月20日

主催：東海大学学園史資料センター  
〒259-1292

神奈川県平塚市北金目1117

電話 0463-50-2450

共催：東海大学付属図書館

印刷：東海大学印刷業務課

《協力者・機関》五十音順 敬称略

青木繁美, 岩岡竜夫(建築デザイン学科教授),

沓澤宣賢(総合教育センター教授), 大宮司勝弘(東京家政学院大学住居学科),

高橋正巳, 千田聡, 長田成信, 羽生修二(建築デザイン学科教授), 東富昭,

北條美智留, 山内和夫(政治学科教授), 山口琢也, 山崎隆夫

株式会社桜映社, 国土交通省国土地理院関東地方測量部,

東海大学情報デザイン工学部建築デザイン学科,

東海大学政治経済学部政治学科, 独立行政法人国立公文書館,

松前記念館, 山田守建築事務所

《参考文献》

山田守建築作品集刊行会『山田守建築作品集』(東海大学出版会 1967)

向井覺『建築家 山田守』(東海大学出版会 1992)

学校法人東海大学『図録 東海大学50年』(東海大学出版会 1992)

学校法人東海大学『東海大学五十年史』(東海大学出版会 1993)

大宮司勝弘「建築家「山田守」の現存する設計図面について」

『東京家政学院大学紀要』45 自然科学・工学系 2005

大宮司勝弘「東海大学湘南校舎3号館に関する現存図面の分析

山田守の設計図面に関する研究(その2)」

『日本建築学会学術講演梗概集(近畿)』2005

大宮司勝弘・羽生修二・岩岡竜夫・大橋竜太

「山田守による東海大学湘南校舎およびその設計図面について」

『2004年度日本建築学会関東支部研究報告集Ⅱ』2005

昭和47年(1972)8月12日撮影

